第１１２回「生と死」のセミナー

「介護者を支える…体験と歴史からのアプローチ…」

日時：2009年（平成21年）９月12日（土）13:30～15:30

講師：本　村　昌　文（もとむら　まさふみ）さん

1970 年、東京都出身。東北大学百年史編纂室教育研究支援者、東北薬科大学非常勤講師。専門は日本近世思想史、とくに江戸時代における儒教の死生観について研究されている。2009 年 2 月より介護支援の組織を立ち上げ活動中。

会場：青年文化センターエッグホール（地下鉄・旭丘駅下車、徒歩１分）

参加費：500 円（当会会員は無料）

講師からのメッセージ：

厚労省の「終末期医療に関する調査」（2008 年 3 月、対象は 20 歳以上、一般国民 5000 人、医師 3021 人、看護職員 4201 人、介護施設職員 2000 人。それぞれ 2527 人、1121 人、1817 人、1155 人から回答）によれば、「自宅で最期まで療養できるか」との問いに、66.2%の人が実現困難と答え、その理由のトップが「介護してくれる家族に負担がかかる」（79.5%）というものである。このことは、自宅で死を迎えるためには、介護者になるべく負担のかからない状況を作り出すことが必要であることを物語っている。

発表者は 2005 年 8 月より、仕事をしながら妻を在宅で介護する生活をおくり、現在に至っている。およそ 4 年間の在宅介護生活を通して、在宅での介護を円滑に行うために、要介護者のみならず、介護者を支えることが重要であると痛感してきた。本発表では、自身の体験を出発点として、在宅介護生活の現状と課題について、「現在」にだけに目を向けるのではなく、時に「過去の歴史」にも言及しながら報告し、あわせてそれらの課題を解決するために
取り組み始めていることについても紹介したい。

主催：仙台ターミナルケアを考える会

問合せ先：事務局 TEL・FAX 022-293-3275

（但し、毎週水曜日　13：00～16：00）